

Green Blue Education Forum プレゼンテーション大会結果

最優秀賞



U-25部門(大短学生・大学院生・専門学校生)



わさびアンバサダーチーム (昭和女子大学リーダーズアカデミー)

吉澤彩、長嶋奈桜、村田愛実

日本特有の本わさびが危機にある、という実態を生産者視点から提言。現在、販売用のわさびチューブは西洋ワサビと添加物が使われており、本来の本わさびは活用されていない。実際に奥多摩の本わさび生産地に向き、生産者のこだわりや魅力、どのようにして栽培されているかを調査し、本わさびは繊細な植物で、綺麗な水、適切な水流が必要とされ安定栽培が非常に大変な一面があること、生産者は栽培する上でこの環境を維持しながら生産していることを伝えてくれた。またこの環境が維持されないと本わさびを生産することが困難であることを訴えた。

U-18部門(中学生・高校生)



北海道士幌高等学校 環境専攻班 (北海道士幌高等学校)

中原蓮、高橋仁、中田大貴

かつてカシワ林でいっぱいだった士幌町の森にカシワ林を再生させるための活動を発表。士幌町カシワ林の現況調査。士幌町には、現状 0.95% しかカシワ林が存在しない、という実態を把握。そこでカシワ林の再生・保全活動や自然環境保全啓発活動や学会など外部発信・外部評価を精力的に行い、カシワ林の再生に着手。この活動がカシワ林の保全のみならず、SDGs、持続可能な社会の実現に至ると述べた。

U-12部門(小学生)



Nagasaki Global Junior Innovators (真未来塾)

相庭和花、斎藤優輝、諸藤遥

チーム3人の地元長崎の大切な場所を残していくために、どんな行動をしていくべきか、を発表。これらの場所は誰がどのように掃除・管理をしているのか、も加えた。長崎市内の小学生 100 人にアンケート調査を実施し、自然保護活動があることを知っている人が 80%もいる中で、その活動に参加したことがある人が 17%という事実を知り、学校の中で自分たちができる取り組み提言し、行動することの大切さを訴えた。

U-25部門(大短学生・大学院生・専門学校生)



エコ〜るど京大(京都大学)
後鳥友里、奥野真木保、西本早希

近年課題視されている、海に漂うプラスチックごみに着目。動物が住みやすく、ごみが少ない海を目指し、プラスチックと賢く向き合うことが重要とし、プラスチックをもっと大切に使い、無駄な利用を減らす方法を提言。1人1人のカバンの中にあるプラスチックの数を数えてSNSにアップする「#かばんの中のプラ」の活動や「現在とるべき個人のアクション」「今後とるべき社会的なアクション」を明確にする「京大式プラチャート“Plide”」を通じてプラスチック使用量を削減する行動が重要だと訴えた。

U-18部門(中学生・高校生)



Amezine(静岡県立三島北高等学校)
小谷千智、佐野桃羽、小澤由季乃

日本、世界には銅汚染された川が多いことを問題と捉え、綺麗な川に変えていくための方法を発表。解決策として、バナナの皮など自然由来の物質を使った浄水方法を提言。実際にバナナの皮による浄水実験を行い、バナナの皮に浄水効果があることを証明した。この自然基盤の解決策は国連が推奨しており、自然由来での浄水は銅汚染された川を綺麗にでき、SDGsの3&6番の達成に近づくこと述べた。

U-12部門(小学生)



なかよし にこにこ 2年生(大牟田市立上内小学校)
立花穂佳、兵藤志帆、藤田咲希

3人の地元、大好きな上内の魅力を元気いっぱいに発表。大好きな場所として、上内小学校、上内の綺麗な川、橘香園やみかん山をどこが魅力的なのかを動画も交えて紹介。この大事な場所を守る方法として、上内に暮らす皆で上内守ることが大切だと教えてくれた。

奨励賞



Sandイッチ(創価大学)
岡部古都、二宮藍、山田成美

建設業を中心に、世界で大量の砂が使われ、取引されている事実に着目。ここに危機感を持ちどうすれば砂の使用量を削減できるかを発表。海砂を採取すると、環境、経済の被害だけでなく、人権侵害をもたらすことがあることを述べ、この砂に変わる代替品として木材・廃プラスチック、ガラスを提案し、環境への配慮と経済発展の両立代替品の適材適所を訴えた。



タピる2.0(東京都立富士高等学校)
後藤 柚香、浅尾 桃子、甲斐 千尋

若者の中で流行っているタピオカドリンク容器のポイ捨て問題に着目。この問題に対し、どう取り組みれば解決するのか、その方法を発表。タピオカ専用のゴミ箱の設置、消費者がより捨てやすくなるための容器、飲み残したタピオカをバイオエタノールに変えるなどのアイデアを提言。また、この様な取り組みを渋谷区と協力して行いたい、と提案した。



チーム必死に守る3人(佐世保市立祇園小学校)
洲上優希、洲上健太、坂本晴奈

チームメンバーが生まれ育った大切な場所である神棚町こうばるの魅力伝え、どうすれば守れるかを発表。動画を通してこうばるの綺麗な自然や川を紹介、多くの人に知ってもらえるよう「夏休みの自由研究」や「絵日記」を活用した取り組みも行った。その上で、「水」の大切さを学び、その水を大切にすることがこうばるを守ることにつながる、と述べた。

Green Blue Education Forum実行委員特別賞



Ocean Lovers (関西学院千里国際中等部)

田村夏琳、宇高結衣、堀江優惟

3分間のアニメーション動画を作成。海の環境を守ることをテーマに構成、表現。

<文部科学大臣賞>

Nagasaki Global Junior Innovators (真未来塾)

<環境大臣賞>

北海道士幌高等学校 環境専攻班 (北海道士幌高等学校)

<アサヒロジスティクス賞>

エコ〜るど京大 (京都大学)

<大和リース賞>

Sandイッチ (創価大学)

Green Blue Education Forumとは

「体験の機会の場」研究機構が実施する。「体験の機会の場」の普及・啓発事業の推進部門。環境教育推進法に基づく「体験の機会の場」認定団体や体験型環境教育の理念に共鳴し賛同する企業・団体で構成しています。
環境・経済・社会的な課題が複雑に関わり合う現在、持続可能な社会を実現するために、これまで以上にSDGsの視点を踏まえたESDや環境教育の取り組みが必要とされています。

Green Blue Education Forumは、これからの未来を担う若い世代が未来の世代との不公平をなくしていくため、自発的・主体的に課題を探し、考え、解決のための方策をまとめ、広く伝えるため、学び考え伝える楽しさを感じる体験ができる機会の場として、本コンクールを開催することとしました。
このコンクールを通じて世界を変えていく強い意志を抱き、想像力・思考力・判断力・表現力を身につけて活躍するリーダーを発掘・育成していきます。



**Green Blue Education Forum
コンクール2020**

未来の地球を守るのはあなたのアイデアです！

Green Blue Education Forum コンクールは来年も開催決定！
世界中が日本に注目する2020年、世界へも発信していけるような
若い世代のアイデアや発想を募集します。

また、2020年の開催においても広く協賛を募集いたします。
未来をつくる子どもたちを応援するため、ぜひコンクールへ
ご協賛いただけますようよろしくお願いいたします。

応募期間

2020年 **7/1**(水)
～ 10/30(金)
(21:00締切)

【会社概要】

社名：石坂産業株式会社
事業内容：産業廃棄物中間処理業
創立：1967年7月
代表者：代表取締役社長 石坂典子
本社所在地：埼玉県入間郡三芳町上富1589-2
従業員数：180名(2019年1月)
コーポレートサイト：www.ishizaka-group.co.jp

お問合せ：Green Blue Education Forum実行委員会
(石坂産業株式会社内「体験の機会の場」研究機構事務局)
TEL:049-259-5800 Mail: info@esd-place.org



<https://gb-ef.org>